

「現場目線」を強みとし、 知的財産の創造から活用までをサポート

弁理士法人海田国際特許事務所
弁理士 海田 浩明氏



2021 年 11 月、業務拡張と組織変更のため、神田神保町に事務所を移転して「海田国際特許事務所」に改称、2022 年 8 月には法人化するなど、新たなステージで活躍を続ける弁理士の海田 浩明氏。「常に誠実な心で業務に情熱を傾ける」がモットーという海田氏に、これまでの経歴やコロナ禍における仕事の変化、今後の展望などをお話いただきました。

1 年で弁理士資格を取得できた理由

私が弁理士という職業についてから、20 年。その間に企業を取り巻く環境も大きく変わり、新しい技術開発に取り組むなど、新規事業の創出に挑む数多くの企業、人にも出会いました。

大学時代は理工学部で学び、大学院修了後に大手鉄鋼メーカーにて 6 年半勤務。新たな設備の立ち上げを任されるなど、若手時代に貴重な経験ができたことは、弁理士になってからもあらゆる場面で生きています。

しかしそう実感できたのは、前職から大手特許事務所に入所して、しばらく経ってからのこと。一から弁理士の仕事を実践で学び、資格取得の勉強をする毎日、相当ハードなものでした。

そんな中、資格取得前の自分が対応を行うと、弁理士でないことだけで不満なクライアントの様子が伝わってくるがありました。「結局、資格を持っていないと駄目だ」そう強く感じた私は、さらに勉強時間を増やし、当時は少なくとも 3 年以上かかると言われていた弁理士資格を、何とか 1 年で取得しました。

現場目線の強みを生かした弁理士に

それから数年後、私は弁理士として自身の“強み”を実感するようになります。

ある日、クライアントから「技術的な問題が発生し、新商品の開発が止まっている」と連絡がありました。数ヶ月前から「特許出願に向けた相談をしたい」と言われ、現場に何度か足を運んでいた私は、すぐに担当者のもとへ。現状を聞き、早急にアドバイスしたいことがありました。すると、ひととおり私の話を聞いた技術者が「ありがとうございます。まったくない発想でした。現

場目線で考える海田さんならではのアイデアですね」と言ってくれたのです。これは、本当にうれしい言葉でした。

「お客さまの顔を見る」弁理士であり続けたい

このように開発の現場に赴き、発明者さまや知財部員さまとともに協働して作業を進めることが多いのですが、コロナ禍ではプラスの変化がありました。それはオンライン会議を頻繁に開催することで、コミュニケーションの機会が増えてアイデアが生まれたり、移動時間が浮いた分、他の案件をこなせたり……と、効率よく業務が進んでいったことです。

2021 年 11 月には、事務所を現在の神田神保町に移転し、2022 年 8 月には法人化しました。有難いことに新規のお問い合わせも増え、現在は一緒に事務所を盛り上げてくれるメンバーを探しているところです（弊所では、国内特許出願で明細書作成約 1000 件以上、意匠出願では、国内・海外を合わせて 1800 件以上の実績があり、この数は日々増加しています。令和 4 年 10 月時点）。

今後は、1 年に 1 名ずつ新たな弁理士メンバーを迎え、10 年後には弁理士が 10 名在籍する事務所にできたらと！ ただ私には、この先もずっと変わらず大事にしたいことがあります。それは、たとえ人数が増え規模が大きくなったとしても、他のメンバーに実務を任せるのではなく、自分も常に「現場主義」でいることです。これからも、現場目線を強みとし、常にクライアントさまから顔が見える“職人”弁理士であり続けたいと思っています。

（取材・文／小林 真由美）

海田氏の事務所 HP はコチラから ↑

